

原発 **0** にむかって

2013年3月27日 No.46

<http://www.tokiyominiren.gr.jp/>

編集・発行／東京民医連事務局 tel: 03-5978-2741 fax: 03-5978-2865 mail: sien@tokiyominiren.gr.jp

脱原発なくして本当の復興はない！

東京ほくと医療生協
さよなら原発in飛鳥山

「原発はもういない、震災への追悼と被災地への連帯」をテーマに3.10 さよなら原発 in 飛鳥山集会在開催され、北区、足立区、荒川区などから500人が集合しました。2年連続での同地での開催となった集会は、うたごえなどの文化行事で始まりました。

会場発言は、雪の仮設での認知症対応など仮設住宅での厳しい現実、ストロンチウムが計測されていない現状など、終息は程遠いという政府や東電への怒りのメッセージが続きました。

東京ほくからは、地域の組合員さんや労組、青年職員など75人の有志が参加し、会場発言では内部被ばくの危険を、ひまわり企画薬剤師の木内さんが訴えた他、東京民医連平和学校でも学びを深めている、かえで薬局事務の伊藤さんが集会アピールを読み上げ、「脱原発なくして日本の本当の復興はない！という思いを強くしました。正しい話し合いで解決しうるような、起きてもない他国からの攻撃に備えて軍備はしたがるのに、いつ重大事故が起きてもおかしくないことが実証された原発は、推進する政府にこれからも反対の声をあげていきたいと思えます。」という感想も寄せられています。

集会参加にあたっては、くらしの活動委員（社保平和委員）を中心に、黄色い布を購入し、ミシンをかけ、マジックでアピールを記入するなどして作成した手製のスカーフや旗、のぼりなども数多く登場しました。

後半は王子駅前へ移動して駅前三角公園からのパレードに移り、シュプレヒコールをあげました。コースとなった明治通りには再稼働反対の声が響き、反原発の想いは被災地とつながりました。

また、前日には、さよなら原発足立3.9パレードも行われ、こちらにも足立区の組合員さんが参加しています。

集会には普段こういった運動には合流していない、連合系の労組や社民系の反原発団体も参加していました。また、参加者が何らかの形で黄色いものを着用するという運動も、おのずと黄色いものを着用してくる参加者が増えており、運動の広がりを感じました。（東京ほくと医療生協 組織部 森松伸治）



写真左側、グレーの帽子は、大山美宏理事長

3.11を忘れない

原発ゼロ宣伝アクション

- ・参加者 37人＋子ども
- ・ゼロ署名 160筆
- ・募金 13,754円
- ・シール投票 58人参加

原発 いる7 いない40 わからない11

署名も募金も何時もより協力者が多くアピール出来たと思います。

